

創刊110周年記念

誇れるふるさと

24地区リレー

〈vol.7〉

〈恩田③ 小学校歌〉

恩田小（三原洋一校長、712人）は、戦時中の1942年に宇部市立恩田国民学校として開校した。45年7月2日の宇部大空襲で校舎が全焼したが、終戦から11日後の同年8月26日には、常盤台元通信学校を利用して授業が再開され、47年4月1日に現在の校名に改称された。

市内唯一の2曲制定、使い分け

第一校歌

一 明けゆく空を 夕雲を
永遠に映して 色澄める
常盤の湖の 面に冴え
平和の光 宿らずや

第二校歌

一 朝だ まつかな日が昇る
サイレンうなる 宇部の街
希望の道を 堂々と
恩田の里よ 緑野に
明るくつよく 育つのだ
恩田 恩田 われらの小学校

第1は卒業式、第2は入学式



時の山口大教育学部教授だった弘中策さんが担当している。第2校歌の制定は、第1校歌の歌詞が児童、特に低学年には難しいことから、歌いやすく、いつでも口ずさめるものを作ろうというのがきっかけだった。歌詞は公募され、22点の応募があった。同校の国語や音楽の先生で構成した選定委員会による審査の結果、鵜の島在住の財満三郎さんの作品が選ばれた。

第2校歌の制定は、第1校歌の歌詞が児童、特に低学年には難しいことから、歌いやすく、いつでも口ずさめるものを作ろうというのがきっかけだった。歌詞は公募され、22点の応募があった。同校の国語や音楽の先生で構成した選定委員会による審査の結果、鵜の島在住の財満三郎さんの作品が選ばれた。

当時の宇部時報、ウベ二子両紙にも第2校歌の完成が掲載されている。記事によると、応募は幅広い中で作業開始のサイ

岡、東京など県外からもあったという。56年12月7日には、同校で完成披露発表会が開かれ、当時の林寛校長は「第1校歌をやめるのではなく、卒業式など高学年の行事の時などは使いたい」と思っている」と宇部時報の取材に答えている。その伝統は今も受け継がれ、第1校歌は卒業式、親しみやすい第2校歌は入学式で流されている。第2校歌の1番の出だし「朝だ まつかな日が昇る サイレンうなる 宇部の街」は、当時戦後復興が進む中、朝日のまぶしさを指している。記事によると、指導していきたくて」と話す。